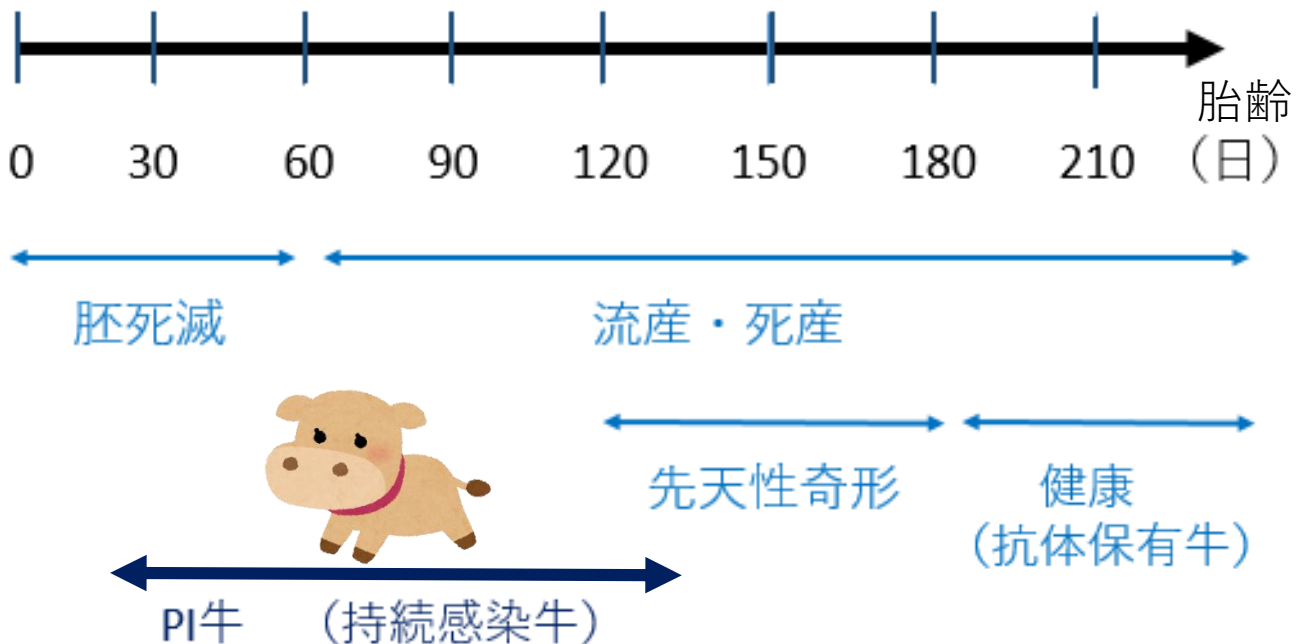


BVDウイルスに対する新しいワクチン



○牛ウイルス性下痢（BVD）とは

牛に感染するウイルス性の伝染病で、県内でも発生があります。このウイルスが妊娠牛に感染すると、胎齢によって流産や異常産を引き起こしたり、子牛が持続感染（PI）牛として生まれる可能性があります。




母牛が胎齢18～125日の間に感染すると、子牛がPI牛として生まれてくる可能性があります。PI牛は一見健康牛と見分けが付きませんが、健康牛よりも免疫応答能が低く、治療に対する反応も悪いです。また、ウイルスを生涯排泄し続けるため、農場の汚染源となります。

BVDは治療法がなく、ワクチンによる予防が大切です。

○ワクチンについて

令和5年11月より、新しいBVDワクチン「**ボベラ**」が発売されました。

	従来のBVD生ワクチン	従来のBVD不活化ワクチン	新BVD生ワクチンボベラ
対応するウイルス型	1型のみ/1.2型	1.2型	1.2型
垂直感染の防止	△	△	○
妊娠牛への使用	×※	○	○

※異常産のおそれがあることから禁止

「ボベラ」は、BVDウイルスの胎子への垂直感染を完全に防御し、PI牛の出生を予防できること、妊娠牛にも接種が可能なことが特徴です。

なお、従来の5種混合・6種混合ワクチンとは異なり、呼吸器病の予防を目的としたものではありませんので、呼吸器病に対応したワクチンと併用することをおすすめします。

飼養衛生管理基準を守り、さらにワクチンを正しく使用して、大切な牛たちを伝染病から守りましょう！

岩手県中央家畜保健衛生所	Tel:019-688-4111
岩手県県南家畜保健衛生所	Tel:0197-23-3531
岩手県県北家畜保健衛生所	Tel:0195-49-3006